



たんぽぽ

戸田市立喜沢小学校

令和7年6月3日

6月号

【学校教育目標】

「夢と希望をもち、
よりよい社会づくりに向け
行動する児童の育成」

子供の主体性を育むために

校長 加藤 貴嗣

今年度の「きざわんピック」は天候に恵まれず平日の開催となりましたが、保護者、地域の皆様に御来校いただき、誠にありがとうございました。

喜沢小学校では、児童の主体性を育むために、「私は何をしに学校へ？」をキャッチフレーズに、「自分から考えて行動しよう」「自分もみんなも大切にしよう」「あきらめないでやりきろう」の「3つの大切」を行動指針として教育活動に取り組んでいます。

そして、「3つ大切」を経験を通して学ぶことができるように、これまでの「先生から言われたことをする」から「自分たちのしたいことをみんなで決める」を経験できるようにと考えています。

「きざわんピック」もその一環として、計画の段階から児童が意見を出し合い、練習の取り組み方や作戦を自分たちで考えたり話し合ったりする場面をつくることで、児童が当事者意識をもち、主体的に行動できるようにと計画・実施してきました。

そして、「自分のしたいこと」により向き合うことができるように、昨年度の「走る」と「団体競技」のジャンル限定から、今年度は「走る」「団体競技」「ダンス」からジャンルを2つ選べるようにと、児童の選択、決定の幅を広げ実施しました。

きざわんピックに取り組むお子さんの様子はいかがでしたでしょうか。

さて、「学ぶ」ことについても、知識や技能を身につけるだけでなく、変化の激しい社会で、正解のない問いに向き合いながら、幸せな人生を送るために必要な資質・能力を身につけていく「児童の主体的な学び」を考えていくことが大切です。

そのために、喜沢小学校では、令和7年度から令和10年度の4年間、文部科学省の研究開発学校の指定を受け、児童が知識や技能を身につけるだけでなく、問題を解決するために知識や技能を生かして考えること、児童が自分の考えをもち他者と話し合い問題を解決していくこと、自分に合った学び方を自分で選べることなど、児童の「やってみたい、学びたい」という意欲を高めるカリキュラムの研究に、有識者等の助言を受けながらの取り組んでまいります。

この取組のゴールは、児童が20年後、30年後に笑顔で幸せに暮らせるための資質・能力を身につけることと考えております。

保護者、地域の皆様には、引き続き、喜沢小学校の取組への御理解と御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。